

2.2. 入院患者の転倒・転落発生率

算式

$$\frac{\text{【分子】 入院中患者に発生した転倒・転落件数}}{\text{【分母】 入院患者延数}} \times 1000$$

(労災病院グループにおけるインシデント・アクシデントレベル3 a以上の事例に限る。)

定義

入院患者の転倒・転落発生割合

指標の解説

施設調査より抽出

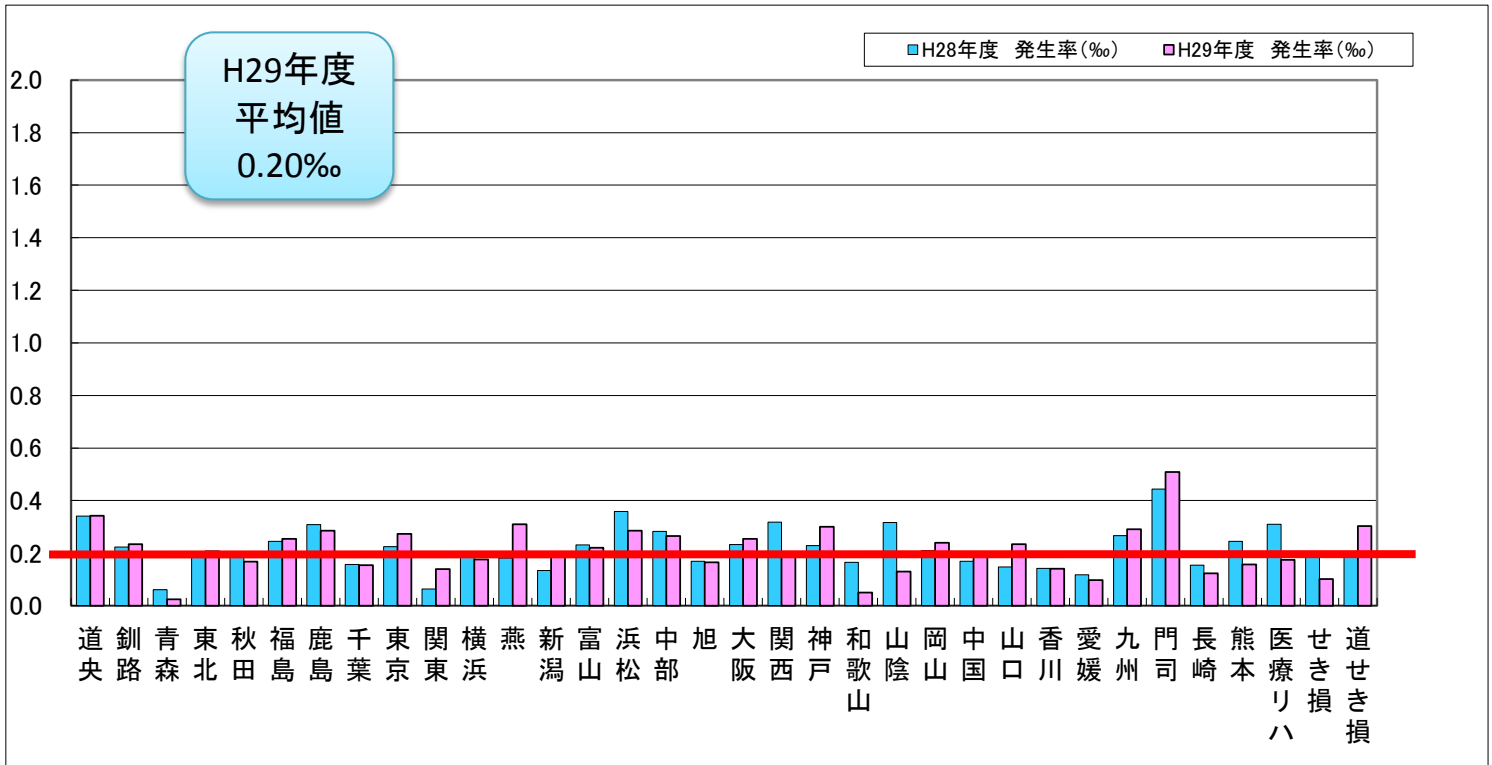
安全で質の高い医療の提供に関して、医療安全対策への取組みについて入院患者の転倒・転落の発生状況から評価する。

インシデント・アクシデント事例の中で転倒・転落件数が最も多く、各病院では医療安全対策の取組みとして転倒・転落のリスクをアセスメントして予防策を立案・実行している。

転倒・転落発生率が低い場合には、転倒・転落予防に積極的に取り組み、またその効果が表れていると評価できる。

※ ‰ = 1000分の1

2.2. 入院患者の転倒・転落発生率



No	施設名	H28年度			H29年度		
		分母	分子	発生率(%)	分母	分子	発生率(%)
1	道央	52,814	18	0.34	52,557	18	0.34
2	釧路	134,099	30	0.22	132,724	31	0.23
3	青森	81,758	5	0.06	81,220	2	0.02
4	東北	152,235	31	0.20	154,438	32	0.21
5	秋田	64,506	13	0.20	59,700	10	0.17
6	福島	89,656	22	0.25	90,477	23	0.25
7	鹿島	12,979	4	0.31	10,504	3	0.29
8	千葉	120,707	19	0.16	117,115	18	0.15
9	東京	116,001	26	0.22	121,029	33	0.27
10	関東	189,602	12	0.06	178,720	25	0.14
11	横浜	201,247	37	0.18	199,467	35	0.18
12	燕	66,304	12	0.18	64,698	20	0.31
13	新潟	59,473	8	0.13	45,834	9	0.20
14	富山	77,631	18	0.23	81,616	18	0.22
15	浜松	91,942	33	0.36	87,594	25	0.29
16	中部	145,006	41	0.28	150,708	40	0.27
17	旭部	70,807	12	0.17	72,887	12	0.16
18	大阪	202,628	47	0.23	200,962	51	0.25
19	関西	194,946	62	0.32	193,837	36	0.19
20	神戸	96,459	22	0.23	103,066	31	0.30
21	和歌山	96,728	16	0.17	99,353	5	0.05
22	山陰	107,526	34	0.32	108,158	14	0.13
23	岡山	105,285	22	0.21	104,493	25	0.24
24	中国	124,378	21	0.17	121,912	23	0.19
25	山口	95,088	14	0.15	94,041	22	0.23
26	香川	127,034	18	0.14	134,897	19	0.14
27	愛媛	59,581	7	0.12	61,692	6	0.10
28	九州	142,738	38	0.27	141,230	41	0.29
29	門司	60,859	27	0.44	56,978	29	0.51
30	長崎	103,785	16	0.15	105,207	13	0.12
31	熊本	126,493	31	0.25	127,585	20	0.16
32	医療り八	32,302	10	0.31	34,379	6	0.17
33	せき損	47,799	9	0.19	49,196	5	0.10
34	道せき損	44,299	9	0.20	42,989	13	0.30
合計		3,494,695	744	0.21	3,481,263	713	0.20
平均	500床以上	180,944	38	0.21	179,689	37	0.20
	400床以上	128,457	27	0.21	129,896	28	0.21
	300床以上	96,960	20	0.21	97,485	18	0.18
	300床未満	51,975	12	0.23	50,129	12	0.24